

メキシコ政治情勢（11月）

〔概要〕

【内政】

- 2日、「エル・フィナンシエロ」紙が月例世論調査を発表。ロペス・オブラドール大統領の支持率は59%で、先月に比して3%減少。
- 9日、カンクンでのフェミニスト団体の抗議活動に対し、市警官が発砲。
- 11日、主要野党が、明年選挙に向けた連合結成を模索するための会合を開催。
- 12日、連邦議会下院が、2021年歳出予算案を可決。
- 20日、「ロ」大統領が、メキシコ革命記念110周年に際し演説。
- 24日、政府、新型コロナウイルス感染症による死亡者の葬儀費用補填を発表。
- 25日、ロブレス元社会開発相が、捜査協力の司法取引に同意。
- 27日、連邦議会は、大統領特権の廃止に関する法改正を承認。

【外交】

- 5日、墨EUハイレベル多国間問題協議が開催。
- 8日、墨政府、アルセ新ボリビア大統領の就任に祝意を表明。
- 9日、女子差別撤廃条約委員会の専門家にメキシコの候補が当選。
- 11日、「ロ」大統領、セアデ外務省北米担当次官に「ミゲル・イダルゴ勲章」を叙勲。
- 17日、ゴンサレス西外務・EU・協力大臣が訪墨。
- 17日、シエンフエゴス前国防相への捜査権限が米から墨に移譲。
- 21日、「ロ」大統領がG20オンライン首脳会合に出席。

【内政】

1 大統領支持率等に関するエル・フィナンシエロ紙世論調査

2日付当地エル・フィナンシエロ紙は、大統領支持率、新型コロナウイルス感染症対策等直近の政策に関する世論調査結果を発表した（10月9～11日および24日に有権者820名を対象に電話調査形式で実施。誤差±3.4%）。今次調査において、「ロ」大統領の支持率は前回に比して3%減。

（1）ロペス・オブラドール大統領の政治運営を支持するか。

- ・支持する：59%（前回調査時（9月下旬、以下同じ）は62%）
- ・支持しない：38%（前回36%）

（2）各分野に関する「ロ」政権の政策を評価するか（注：連邦主義同盟とは、反「ロ」大統領の立場にある10州（アグアスカリエンテス州、コアウイラ州、コリマ州、チワワ州、ドゥランゴ州、グアナフアト州、ハリスコ州、ミチョアカン州、ヌエボレオン州、タマウリパス州）知事の連合）。

・「ロ」大統領の支持率

連邦主義同盟参加州の住民（以下同じ）：52%が評価すると回答

その他の州の住民（以下同じ）：63%が評価すると回答

・汚職対策

連邦主義同盟参加州：41%が評価すると回答

その他の州：47%が評価すると回答

・保健分野

連邦主義同盟参加州：29%が評価すると回答

その他の州：39%が評価すると回答

・治安対策

連邦主義同盟参加州：22%が評価すると回答

その他の州：31%が評価すると回答

・経済分野

連邦主義同盟参加州：16%が評価すると回答

その他の州：27%が評価すると回答

(3) 各テーマに関する「ロ」政権の対策をどう評価するか。

・汚職対策：評価する45%、評価しない36%

・治安対策：評価する28%、評価しない56%

・保健分野：評価する36%、評価しない40%

・経済分野：評価する24%、評価しない53%

(4) 以下の「ロ」大統領に期待される特質について好評価するか。

・誠実さ：54%（前回（9月、以下同じ）55%）

・リーダーシップ：51%（前回53%）

・結果を出す能力：39%（前回41%）

(5) 以下の意見に賛成か、反対か。

・「「ロ」大統領にとって、国民は重要な存在である」：賛成57%、反対37%

・「「ロ」政権は良い成果を挙げている」：賛成49%、反対40%

・「「ロ」大統領は自分の意見を代弁してくれる」：賛成41%、反対49%

(6) 今月の以下の出来事や決定をどう評価するか。

・シエンフエゴス前国防相の米国における拘束：良い76%、良くない10%

・災害基金や科学技術基金を含む109の基金の廃止：良い44%、良くない38%

・コアウイラ・イダルゴ両州における選挙での制度的革命党（PRI）の勝利：

良い27%、良くない49%

2 カンクンで市警察官がフェミニスト団体に発砲

9日、カンクン（キンタナ・ロー州、ベニート・フアレス市）の市役所構内でフェミニス

ト団体が抗議活動を行っていたところ、市警察官が空と地面に向けて発砲。同抗議活動は、女性殺人防止策や女性殺人発生後の対応等が成果を伴っていないことに関し、同州検察等の当局に対して行われていた。

3 主要野党、明年選挙に向けた連合の可能性を模索

11日、制度的革命党（PRI）、国民行動党（PAN）、民主革命党（PRD）の各代表者が反「ロ」政権団体「Si por Mexico」の代表者である企業家等と会合し、明年の諸選挙において反国家再生運動（MORENA）として野党連合を結成する可能性につき協議した。

（注：この協議の結果として、「Si por Mexico」を含めた形で選挙連合を組む等の動きは報じられていないが、その後、12月初旬にPRI、PAN、PRDが改めて連合形成や統一候補の擁立につき話し合い、かかる方向で協働する可能性が高まっている。）

4 連邦議会下院が2021年歳出予算案を可決

12日、連邦議会下院で、明年の連邦歳出予算案が可決された。本予算総額は、本年予算に比べ0.3%減の約6,295兆ペソ。連邦省庁、司法当局、及び国家選挙機関（INE）における歳出削減、保健分野、社会政策、インフラプロジェクト等への特別再増額の却下等が減額の主因とされる。

5 メキシコ革命記念110周年記念行事

20日、メキシコ市独立記念塔にてメキシコ革命110周年記念行事が開催され、「ロ」大統領が出席した。行事には大統領夫人の他、サンドバル国防相やオヘダ海軍相等が参加。式典では、軍人への表彰の他、新型コロナウイルス感染症対策に奔走する医療従事者に「ミゲル・イダルゴ勲章」が授与された。

6 政府、新型コロナウイルス感染症による死亡者の葬儀費用補填を発表

24日、墨連邦政府は、新型コロナウイルス感染症による死亡者の葬儀費用を補填する旨を発表した。申請は今後1年間可能で、死亡者一人につき1万1,460ペソがその家族に支払われる。

7 ロブレス元社会開発相が捜査協力の司法取引に同意

25日、汚職容疑で勾留されているロブレス元社会開発相（注：2019年8月から「Estafa Maestra」事案（ペニャ・ニエト前政権期に社会開発省他が50億ペソ以上の公的予算を横領していたとされるもの。「ロ」氏は、同省の予算に関する不正を知っていたにも拘らず書面で大統領に報告する義務を怠ったとして、公職における不適切行為の疑いで勾留されている）が、同汚職疑惑についての捜査に協力する司法取引に応じた。ロブレス氏の証言により、横領された公的資金の最終受領者が明らかになることが期待される。同氏は、

ビデガライ元外相やミード元大蔵公債相・大統領候補の横領及び選挙活動における不正等を告発すると見られている。

8 連邦議会が大統領特権の廃止を承認

「祖国への裏切り」とされる重大犯罪だけではなく、汚職や選挙不正を含めたその他の一般犯罪でも大統領を告発できるとする改革案が連邦議会で承認された。(現在、州議会の承認待ち。野党からは、同改革では実際には大統領特権は廃止されず、告発・訴追され得る犯罪が増えたのみとの批判もある。

(注：大統領を告発するには、連邦議会下院が上院告発文を提出し、これを上院が承認する必要があり、「ロ」大統領が主張するように大統領が一般国民と同様に裁かれるようになる訳ではない)。

【外交】

1 墨EUハイレベル多国間問題協議の開催

5日、メキシコとEUはハイレベル多国間問題協議を開催し、特に、メキシコが国連安全保障理事会非常任理事国、人権理事会理事国、及び経済社会理事会理事国となるため、同協議が協力を強化する機会になることを強調した。また、アジェンダ2030の実施、国際開発資金メカニズム、気候変動対策、生物多様性等について行動及びイニシアチブを推進することで合意し、世界保健機関(WHO)の強化等に関する共通の関心を強調した。両者は、抗新型コロナウイルス・ワクチンへの公平なアクセスを推進するために協働する。

2 墨政府のアルセ新ボリビア大統領の就任への祝意表明

8日、墨政府は、大統領ビデオ・メッセージと外務省プレスリリースを通して、アルセ新ボリビア大統領に祝意を表すると共に、墨ボリビア関係が戦略的な関係に深化することを望むとした。大統領は、ボリビアの民主主義に祝意を表明。外務省は、メキシコが明年も議長国を務めるラ米カリブ共同体(CELAC)へのボリビアの再参加を促した上、墨政府高官が近日中にボリビアを訪問する考えを伝えた。

3 女子差別撤廃条約委員会の独立専門家にメキシコの候補が当選

9日、国連本部において行われた女子差別撤廃条約(CEDAW)委員会で、メキシコのボニファス候補が同委員会の2021～24年期独立専門家の1人として選出された。ボニファス氏は、人権やジェンダー平等のテーマに詳しい女性有識者。墨外務省は、墨政府の掲げるフェミニスト外交に沿う代表者であるとし、祝意を表した。

4 「ロ」大統領、セアデ外務省北米担当次官を叙勲

11日、セアデ外務省北米担当次官の辞任に際し、「ロ」大統領は、同次官の墨米加新協

定（USMCA／T-MEC）のメキシコ政府交渉代表者としての功績を称え、「ミゲル・イダルゴ章」を叙勲した。なお、「セ」次官は、辞任後は家族のいる香港に居を移すと発表。

5 墨西外相会談

17日、エブラル外相は、訪墨したゴンサレス西外務・EU・協力大臣と会談し、多国間問題、国連やG20等における両国の協働、ラ米カリブ共同体（CELAC）、抗新型コロナウイルス・ワクチンへの包摂的なアクセス確保、感染症対策におけるジェンダー平等の観点の導入、及び感染症拡大の影響を受けて脆弱なセクターが陥っている社会経済的危機からの回復措置等につき協議した。「エ」外相が対面で他国外相と会談したのは、感染症拡大後で初めて。「ゴ」西外相は、マルケス経済相、シェインバウム・メキシコ市長、当地西企業家等とも会談した。

6 シエンフエゴス前国防相の捜査権限が米から墨に移譲

17日、麻薬組織とのつながりや資金洗浄の疑いで米当局により先月以降身柄を拘束されていたシエンフエゴス元国防相の捜査権限が墨当局に移譲されたと発表された。「エ」外相は、記者会見を開き、「シ」前国防相の訴追に関する捜査権限が米当局から墨当局に移譲されるまでのプロセスに関し説明した。「ロ」大統領は、翌日の定例早朝記者会見で、本件捜査権限移譲を喜ばしく思うと述べ、米国政府へ謝意を表した。また、高位の軍人であろうとも、容疑が証明されれば制裁を受けなければならないとの考えを改めて述べた。

7 「ロ」大統領のG20首脳会合出席

21日、「ロ」大統領は、オンラインで行われたG20首脳会合に出席。保健は基本的人権であること、医療ケア、ワクチン及び医薬品は無料で普遍的に適用されなければならないこと、予防は治療に勝るため、健康的な食事を促進すべきであること、家族を大切にし、高齢者を見捨ててはならないこと、及び経済的救済はボトムアップで行われなければならない（まず貧しい人々を助け、政府の行動を破産した企業や金融機関への公的資金の割り当てだけに集中させるべきではない。）こと等の考えを表明した。

（了）